



龍拔兒德街論

第十三編止

大藏省  
龍譯課





1127  
15

龍按  
見德街論第十編

終結

大正十一年四月  
侯爵邸寄贈

余ノ斯書ニ於テ論述シ來ル所ヲ見テ難者必スヤ云ハン子ハ病  
ノ難症タルヲ喋々説明シナカラシテ療治スルニ當テハ唯々其  
外部ノミニ止コラントヲ布フモノ、如ク然リ而テ又子ハ長々  
レク凡ク銀行本来ノ制度ハ各自準備正金ヲ保持セガルハカラ  
サルモノニシテ若シ一旦其職ヲ怠ルニ於テハ忽チ破産ノ嚴罰  
ヲ蒙ムルベキ旨ヲ論辨シ殆ント読者ヲレテ罷倦ノ情ヲ起カシ  
メタリタルニ我カ英國ノ制度ニ至テハ然ラス只ク志個ノ銀行  
ニ全國ノ銀行準備金ヲ保守スルノ任組ニシテ復令ニ何等ノ事  
アルニ決シテ破産ノ嚴罰ヲ蒙ムルノ憂ナシト明言シ且ツ斯ノ  
如ク銀行本来ノ制度ニ戻ルノ任組ナルモ尚ホ之ヲ維持シテ只  
一部分ノ欠所ヲ補繕スルニ止マラシトテ説ケリ豈ニ前後不都



合千万ノ論旨ナルニアラスヤト

余ハ此言ニ答テ云ハントス余カ從來ノ制度ヲ存シ只ク之ヲ補  
修スルニ止マラント欲スルモノハ他ナシ仮令ニ千万言ヲ費シ  
テ之カ全体ノ変革ヲ主張スルモ其勞全ク徒為ニ属シ其言決シ  
テ行ハルベカラザルヲ知ルカ故ナリ夫レ數箇ノ星霜ヲ積テ漸  
クニ發育シ而ノ自然ニ商業ノ進路ニ適合シ既ニ人間ノ腦裡ニ  
深染シ來リタル所ノ信用ノ仕組ヲレテ一朝之ヲ動カレ之ヲ變  
セシメント欲スルモ或ハ論者ノ非議スルニ遇ヒ或ハ諸君ノ逆  
撃抗論スルアリテ到底其變革ヲ主張スルノ説ハ行ハル可カラ  
ザルベキナリ試ニ思ヘ今英國ノ立君政体ヲ變革シ之ニ代フル  
ニ共和政体ヲ以テセント云ハント人能ク之ヲ許スベキヤ忽チ  
討議抗論ノ群起スルアリテ其説ノ全ク徒為ニ属センハ必然ナ  
リ然レ則チ英國銀行ヲ基本トスル英國金銀市場ノ現在ノ仕組

ヲ廢シテ更ニ銀行本來ノ制度タル各銀行ガ各自ニ其準備金ヲ  
保持スルノ制ニ改メント欲スルモ其決シテ行ハルベカラザル  
ヤ何ソ英國立君政体ノ共和政体ニ於ケルト異ナラン抑モ斯ノ  
如キ重大ノ廢置ヲ遂クルニ充分ノ目的ナレ焉ンゾ能ク其功ヲ  
奏スルヲ得ン故ニ曰ク我カ英國銀行ノ制度ヲ變革セント主張  
スルモ其勞全ク徒為ニ帰スベキナリト

然ルニ此義理ニ就テ熟考セザル所ノ人ハ斯ノ如ク英國銀行ニ  
依頼スルノ風如何ニ深ク我國ノ習慣ニ添着セル乎ノ思考ニ達  
スルヲ能ハザルベレ故ニ余ハ前項ニ於テ既ニ過多ノ説明ヲ下  
シ為ニ読者ノ欠伸ヲ惹出サントスルマデニ至リレモ未タ此説明  
ヲ此ニ止ムルヲ能ハス猶ホ読者ヲレテ欠伸ヲ再ヒセシメサル  
ヲ得ザルナリ試ニ看ヨ我カ貯蓄銀行ノ仕組ノ確實ニシテ且ツ  
善良ナルハ既ニ各人ノ許ス所ナレバ若シ今マ此仕組ヲ誹議ス



ル者アラハ各人驚テ或ハ之ヲ狂ナリト云フナルヘシ然ルニ又  
退テ能ク熟考スルニ彼各人ノ認テ確定善良ナリトナス所ノモ  
ノハ果シテ何物ナルヤヲ知ラサルナリ最後ノ報告ニ由テ見ル  
ニ諸貯蔵銀行ノ預金総高ハ郵便局ヲ合セテ凡ソ六千万封度ト  
ス而メ此預金ニ應スベキ準備ハ悉皆確實ナル抵当物ニシテ其  
正金ノ準備ニ至リテハ全ク之ナレト断言スルモ可ナリ勿論日  
業ニ必要ナルヲ以テ項少額ノ正金ノ如キハ之ヲ有スベキナレ  
氏手詰ノ準備即チ驚慌ヲ防クノ準備金ニ至リテハ實ニ一庁ノ  
小銀貨タモ有セザルナリ故ニ此等銀行ニレテハ万一驚慌ニ會  
スルノ日ニ当テハ彼ノ抵当物ヲ正金ト交換シ得ルノカアルヲ  
頼ミトスルノニ然ルニ己ニ屢々開示セシ如ク一旦驚慌發生ノ  
時際ニ於テ此抵当物ヲ交換スルハ皆英國銀行ノ助ケニ依ルナ  
リ斯ノ危急時ニ際シテ新々ニ預金ノ群集シ或ハ貸出シヲ為シ

得ルノカヲ有スルモノハ獨リ手詰ノ準備正金ヲ保守スルノ英  
國銀行アルノミ今若シ世上一般ニ驚慌流行シテ貯蔵銀行ノ預  
金上ニモ促進ヲ被ムルコトアルニ方リ英國銀行ノ助ケアルニア  
ラザレハ彼ノ利付公債証券ヲ以テ僅カニ十万封度ノ正金ヲ得  
ント欲スルモ又能ハサルベシ要スルニ此等銀行ハ驚慌ニ備フ  
ルノ準備正金ヲ手詰ニ保有セザルニ由リ全ク之ヲ有スルノ一  
銀行ニ依頼スルモノト云フベキナリ  
以上開陳セシモノ、如キハ我々銀行仕組ノ既ニ深ク吾人ノ腦  
裡ニ粘結セルヲ示ス數多中ノ只一例タルニ過キス政府ク貧民  
ノ為メニ其貯金ヲ保守スルテスラ高ホ此銀行仕組ニ之レ由ル  
而メ人之ヲ怪マガルノミナラズ却テ之ヲ讚賞シ一人ノ之ヲ非  
トシテ抗論スルモノアルヲ聞カス然リ而メ英國銀行ク保守ス  
ル所ノ單獨ナル準備金ニ基スル我々銀行仕組ヲ廢シ彼ノ數多



ノ銀行カ各自ニ其準備金ヲ保持スル、仕組ニ変遷スルノ決  
シテ能フベカラザルノヲタルハ業已ニ各實地家ノ許ス所ニシ  
テ一動乱ヲ起スニアラザルヨリハ決シテ其功ヲ遂クベカラス  
而シテ此動乱ヲ起スノカモ又得易キ者ニアラザルナリ  
然ラバ則チ我カ銀行仕組ヲ將來ニ保存シカヲ尽シテ之ヲ補修  
スルノ外又他ニ手段アルヲナシ之レ余カ只ク之ヲ補フニ止マ  
ラントスル所以ニシテ望ムハ成ルベク最良ノ修補ヲ加ヘン  
ト欲スルナリ然リ而シテ補修法ノ何等ノ理ヲ以テ我カ力内ニ於  
テノ最良術タル歟ニ就テハ已ニ勉メテ之ヲ説明シタリキ  
且又佛朗西ノ銀行仕組ノ我カ英國社會ニ適合セザルノ理ハ前  
既ニ之ヲ并明セリ夫レ行政官ノ直撥ヲ以テ英國銀行ノ頭取及  
ト副頭取ヲ命スルモ決シテ我カ銀行仕組ノ弊害ヲ除去シ困難  
ヲ緩和スルノ助ケヲ為サザルハ勿論却テ此兩者ヲ愈々增長セ

シムルニ至ラシトナシ恐ル、ナリ然レハ亞米利加ノ銀行仕組若  
シクハ之カ變形ヲ我國ニ行ルベカラザルノ所以ヲ説明スルハ  
予カ當時ノ任タルヲ信スルナリ亞米利加ノ成法ニ曰ク各國立  
銀行ハ其負債高ニ應シ一定ノ割合ヲ以テ正金ヲ保持スベシト  
但シ亞米利加ニ二種ノ銀行アリ隨テ準備金ノ割合、如キモ亦  
自カラニ様ノ別アリト雖ハ其意シキハ茲ニ用ナキヲ以テ敢テ  
贅セス而シテ諸銀行カ能ク此法ヲ遵守シテ定額ノ準備金ヲ保持  
スルヤ否ヤハ自カラ又検査員アリテ時々之ヲ検査スルナリ茲  
ニ人或ハ向ハシテ斯ノ如キ法ハ我カ英國ニ採用スベカラザル予  
ト余之ニ答テ云シ夫レ亞米利加銀行ノ仕組ハ各自其準備金ヲ  
保持スルノ制ナレハ此点ニ關シテハ其採用ト否ヤヲ論スルノ  
無用ナルハ余既ニ之ヲ縷陳シタリ但シ仮令ヒ此法ヲ採用セン  
ト欲スルモ得ベカラザルナリ業已ニ單獨準備法ハ我カ國習



深濶セリ故ニ更米利加ノ仕組中我カ英國銀行ニ採用シ得ベキ  
ノ点ハ只準備金ノ定額ヲ定ムルノ法則之ナリ(負債高ノ三分ノ  
一ヲ以テ準備金ノ定額ト極リタルモ)然レ氏前ニモ云ヘル如  
ク負債ノ割合ヲ以テ定ムル所ノ定額ハ板令ニ成法ノ強迫スル  
所ニアラスレテ取締役等ノ随意ニ設クルモノニ係ルト至氏高  
小銀行準備ノ為メニ適當ナル本位ニアラザルナリ負債ニ迫近  
ナルモノアリ緩遠ナルモノアレハ此面積ノ負債ニ備フルニ準  
備金ノ一定シタル割合ヲ以テスルハ或時ハ準備金ノ饒多ニ  
失レ又或時ハ過少ニ失スルヲアリ蓋シ通常ノ危険ニ備フルニ  
饒多ノ豫備ヲ以テスレハ自カラ利潤ノ幾分ヲ減殺セサルヲ得  
ス且又板令ニ平時ニ於テハ過饒ナルニ似タリト至氏一朝事ア  
ルノ時ニ當テハ必スシモ此豫備ヲ以テ銀行ヲ危厄ノ中ニ救フ  
ヲ得ザルベレ何トナレバ非常危厄ノ場合ニ於テハ多クハ此

預備ニシテ充分ナリトスベカラザレバナリ夫レ然リ支配人等  
カ随意ニ撰テ此仕組ヲ採用スルノ時ニ於テモ既ニ害アリトス  
況ンヤ之ヲシテ成法ノ強迫スルモノタラレメハ此上猶ホ幾層  
ノ害ヲ増スベキカ知ルベカラス夫レ英國銀市ノ敏捷ナルヤ一  
歩タリトモ成法ヲ以テ準備金ニ限界ヲ置クノ仕組ニ近接スル  
ヲアラハ驚慌ヲ喚起スル當ニ目前ニアルベキナリ今若シ成法  
ニ由テ負債高ノ三分ノ一ヲ以テ一定ノ割合トセハ銀行カ三分  
ノ一ニ封セラル、且ト共ニ忽テ人心ニ恐怖ノ念ヲ生セシメ而  
カモ此恐怖心ノ世上ニ蔓延スルハ頗ル迅速ナルベシ加之ノミ  
ナラズ此恐怖タル全ク無根ノモノニアラサルカ故ニ其害一層  
甚シカルベシ故ニ銀行準備金ヲ其負債高ノ三分ノ一ト定ムベ  
シト云フハ取モ直カス此三分ノ一ヲ不用ニ置クベシト云フニ  
異ナラズ何トナレバ銀行ハ此三分ノ一ノ準備金中ヨリ貸出シテ



為スヲ能ハス又臨時非常ノ補助ヲ与フルヲ得ス又我輩ノ彼  
ノ手詰準備金保守者ノ義務トシ認ムル所ノ大任ヲ尽スヲ能ハ  
カレハナリ故ニ重米利加ノ仕組ニ於テ更ニ英國ノ為メニ補助  
トナルベキモノナシ其本質本義ハ既ニ誤マレルモノト云フベ  
キナリ

故ニ余以爲ラク我輩ハ己ルヲ得ス緩和ノ療法ヲ須テ余ハ既ニ  
開示セシ如キ一小部分ノ補修ニ依頼セラルベカラズ而シテ反覆  
熟考義理精覈ノ判断ヲ以テスレハ前陳補修ノ善良ナルハ余ノ  
既ニ信スル所ナリ然レモ今此論題ハ活機敏捷ナリ此解説ハ困  
難ニシテ且ツ変化定リナシ故ニ其成果ノ如何ハ全く我々測  
知シ得ル所ニアラカルナリト云ハバ余又茲ニ何言ヲカ云ハシ

ヤ



